# 最近の薬品等流失事故概要一覧

平成23年2月10日現在

| 発生<br>年月日 | 時間 | 水質事故発生<br>建物名又は桝番号 | 事故概要 | 検出物質等 |
|---|---|---|---|---|
| 平成21年<br>4月9日 | 13:30頃 | 本郷）<br>工学部10号館<br>1階140号室<br>クリーンルーム | ドラフトチャンバーで金属部品を流水で洗浄中、手が滑って部品を落下させ，ガラス製の洗浄槽にぶつけ破損し，洗浄槽内の王水（濃硝酸と濃塩酸の混合液）10リットルを下水へ流出させた。 | 王水　10L |
| 平成21年<br>9月15日 | 23:50頃 | 本郷）<br>工学部4号館<br>4階409号室流し | 実験器具の片付けの際，300mlビーカーに入っていた硝酸，硫酸混合液200mlを流しへ排出し，さらに下水へ流出させた。 | 硝酸･硫酸混合液<br>200mL |
| 平成22年<br>3月11日 | — | 西千葉）<br>生産技術研究所<br>千葉実験所 | 平成22年3月4日に採取した排水の自主検査でふっ素及びその他の化合物のについて，24mg/L（下水排除基準10mg/L以下）が検出された。 | 水質濃度<br>ふっ酸　24mg/L |
| 平成22年<br>5月10日 | 14:30頃 | 駒場Ｉ）<br>５号館北側道路 | 納入された薬品類を学生二名が実験室に運んでいる途中，濃硫酸500mlビンを誤って道路（アスファルト）上に落とし割ってしまった。すぐに指導教員が呼ばれ，雑巾で濃硫酸を吸い取り，おそらく9割方を吸い取った。アスファルトに染み込んだ硫酸がこのままでは危険なため，薄い水酸化ナトリウム水溶液をまいてアスファルト上で中和（pH紙で確認）してから，ポリバケツの水を10杯以上流しながらデッキブラシをかけて現場処理を終了。環境安全本部に連絡。下水に流れた水は中和後のものなので，下水道局には報告していない。 | 濃硫酸<br>中和処理後，水洗い |
| 平成22年<br>8月20日 | 12:00頃 | 本郷）<br>工学部５号館<br>Ｂ１階045D室 | 山口･野田研にて，ビーカー（100ml)中に入れた濃硫酸30mlの希釈中にビーカーから溢れ，濃硫酸約10mlを下水へ流出させた。下水道局水質規制課斉藤係長から，少量のため下水への影響は出ないとのこと。大量の水を流した。 | 濃硫酸　約10mL |
| 平成22年<br>12月15日 | 11:30頃 | 駒場Ⅱ）<br>生産技術研究所<br>３号館 | マイクロメカトロニクス国際研究センター 年吉研究室より，銅めっき液（硫酸銅水溶液）約3リットルをドラフト内の排水口に漏出させた。排水管の保護のため安全衛生管理室の指示により水道水を1時間流して洗浄した。<br>その後の現場確認により，pH0であった。 | 硫酸銅水溶液<br>pH0 |
| 平成22年<br>12月20日 | — | 本郷）<br>公桝６ | 下水道局水質検査において，亜鉛2.9mg/Lが検出され，注意書が出された。<br>部局関係者に薬品等の使用について調査したが，排出の特定はできなかった。 | 水質濃度<br>亜鉛　2.9mg/L |
| 平成23年<br>1月12日 | 18:30頃 | 本郷）<br>武田先端知ビル<br>クリーンルーム | CR内のドラフトチャンバーでは，薬品原液と洗浄水は専用の廃液タンクに捨て，容器の洗浄水などpHが中性で環境に悪影響を与えない水はドラフトチャンバーから排水貯水タンクに集められ，万が一薬品がこぼれても直接下水道に流れないように排水貯水タンクが設置されている。<br>実験を終了した学生がタンクのpH2.88と異常でありCR管理者に電話で指示を求め，排水貯水タンクのポンプを停止するように指示した。学生は運転切替スイッチを「停止」でなく「手動」に回し，酸性の水約500Lを排水した。 | フッ化水素酸　20mg/L<br>硫酸　400mg/L<br>窒素　1,500mg/L<br>亜鉛　25mg/L<br>（推定） |